

医薬品業界になくてはならないネットワークインフラ — 医薬品業界データ交換システム「JD-NET」—

年間7億6,600万件のデータ 交換件数を誇る医薬品業界EDI

1988年（昭和63年）に会員企業255社でスタートした医薬品業界データ交換システム「JD-NET」は、医薬品メーカー等と医薬品卸等との間の受発注やマーケティング等に欠かせない医薬品業界の基幹インフラとして、20年以上にわたって安定稼働を続けている。今では、会員数524社（医薬品メーカー等264社、医薬品卸等260社）、月平均約6,380万件、年間約7億6,600万件に及ぶデータ交換を行う、医薬品業界にはなくてはならないEDIシステムとなっている。「JD-NETは、1987年（昭和62年）6月に255社の会員企業からなるJD-NET協議会を設立し、翌年6月

よりサービスの提供を開始しました。システムの構築及びセンターの運用は、NTTデータにお願いしています。同社には20年以上にわたって、常に万全の体制で、システムの安定稼働と、医薬品業界を取り巻くIT環境変化への的確な対応を図っていただいております。」（JD-NET協議会 尾谷護郎事務局長）

JD-NETデータ交換の仕組みは、①会員企業とJD-NETセンター間を通信回線で結び、送信側企業は複数相手先を一括してJD-NETセンターの集信ファイルに送信、②JD-NETセンターでは集信ファイルのデータを宛先単位に振り分け、取引関係をチェックのうえ、該当宛先の配信ファイルに格納、③受信企業側は、自社の配信ファイルからデータを受信、④各ファイルの処理済みデータは、一定の時間内に消去、といった流れになっている。主な特長として、業界統一方式により多くの取引先に大量のデータを一括して送信できる、経済的で迅速かつ正確な処理が可能、万全の秘密保護対策といった点があげられる。



JD-NET協議会
事務局長 尾谷 護郎氏

今秋、第5次システムの サービス提供を開始

JD-NETは、参加企業数、利用件数ともに国内有数のEDIシステムとして、時代の変化とともに会員企業のニーズを取り入れつつ、これまでに3回のバージョンアップを図ってきた。現在は、今年秋からのサービス提供に向け、第5次システムの接続試験の真っ最中だ。

尾谷事務局長は、「第5次システムでは、さらなる安定稼働とサービスレベルの向上に向け、①通信手順の見直し、②Web機能の拡充、③バックアップ機能の強化、④料金体系の見直しの4つに絞って、バージョンアップを図ることとしています」と述べている。

●お問い合わせ先●

JD-NET協議会
事務局

TEL：03-5259-5225

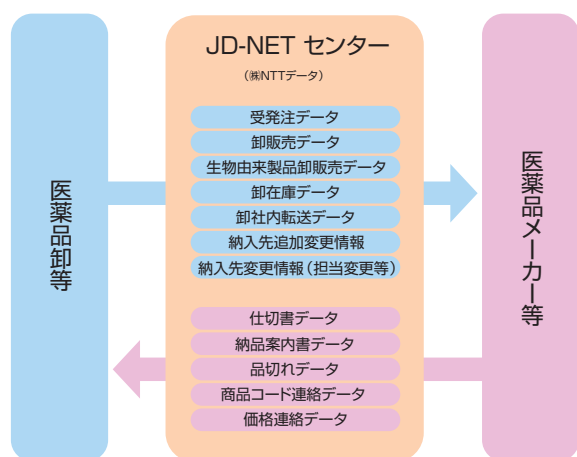


図1 JD-NETシステムの概要